

戦争意識の希薄化 日欧比較

千畝ブリッジングプロジェクト



問題の発見！

千畝ブリッジングプロジェクトでは、夏にリトアニア渡航を実施している。昨年、リトアニア渡航を通して気づいたことは、リトアニアと日本の戦争に対する態度の違いだ。現地の大学生は、戦争に対する意見や態度がしっかりしている。それに対して、私たちは確固とした意見を伝えることができなかった。これは、私たちだけではなく日本の、特に若者全般にも当てはまることではないだろうか。2015年は終戦から70年を迎えた。戦争体験者の高齢化が進む中、戦争の悲惨さを後世に伝えていくことが課題となっている。

その理由は？

杉原千畝を日本人より外国人の方が知っている理由、大戦期の歴史をあまり知らない理由、日本の平和教育が浅いことにある。以下のグラフを見てみると、日本人の特に日本の若者の戦争に対する意識の低さがうかがえる。また、平和教育の方法において、日本は被害者目線だが、同じ敗戦国のドイツは加害者意識も学ばせているようだ。

ここでドイツと日本の平和教育を比較すると日本の歴史教育の中途半端さが浮き彫りとなる。ドイツでは「過去に対する責任」を訴える教育が実践されている。いまや多くの州で強制収容所について学ぶことが義務付けられているという。日本もドイツと同じく責任の意識を持たなければならぬ。出来事が多くある。しかし、近代史は時間がないという理由で総合的に教えられない場合が多いのが現状だ。

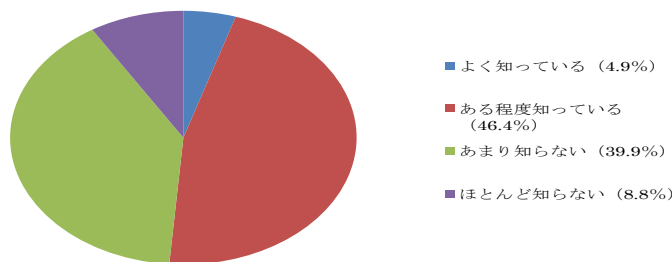
日本調査地別にみた平和博物館訪問率					
	東京	京都	広島	那覇	全体
日本1997年調査における訪問率	24.9	59.9	93.8	99.4	72
日本2006年調査における訪問率	27.6	51.7	96.2	96.4	69.1

ドイツ調査地別にみた平和博物館訪問率					
	ベルリン	フランクフルト	ドレスデン	ニュルンベルク	全体
独国2009年調査における訪問率	74	82	78.9	78.8	75.4

引用：学生意識調査（中央大学法学部）（2005）

平和教育学会報告資料

第二次世界大戦の知識



我々の意義とこれから

このように日本人の若者の、戦争の歴史に対する意識が希薄であるという問題を受けて、私たち千畝BBJは「伝える」ことを目的として様々な活動を行っている。私たちは、「伝える」×「つながる」をテーマに毎年夏の杉原の痕跡があるリトアニアへの渡航や在リトアニア杉原記念館での日本語ボランティアガイドをはじめ、杉原千畝のガイドブックの作成、高等学校での出張講義、杉原千畝の勉強会、岐阜県八百津町や福井県敦賀市の記念館訪問など、国内外の多岐にわたるフィールドで活動している。特に高等学校での出張講義においては、杉原の功績をスライドを使って分かりやすく説明したり、また「実際にあなたが杉原の立場であればどのような行動をとったか」などの問いかけに自ら考え話し合う体験型の授業を行っている。さらに、杉原の人物像を伝えることにとどまらず、第二次世界大戦の残酷さやアウシュビッツ収容所でユダヤ人が受けた迫害の

恐ろしさなど、高校の授業では詳しく触れられることがなかった歴史的事実を伝えることで、生徒たちが「後世において二度と繰り返してはならない」という強い想いを刻むことを目的としている。何より、私たちはリトアニア、ポーランドへの渡航の中で、実際に杉原の軌跡を辿り、アウシュビッツ収容所やユダヤ人博物館などの歴史的跡地を訪れたことで、強いリアリティをもって生徒たちに「伝える」ことができるのだ。私たち千畝BBJは、これからも、決して忘れ去られてはいけない歴史的事実や杉原の博愛と人道の精神をより多くの人々に伝えることを通して、より良い社会、世界をつくっていききたいと考えている。正しく、分かりやすく「伝える」ためにも、毎年、リトアニア、ポーランド渡航、杉原についての勉強会、杉原の記念館への訪問合宿などの様々な体験型学習を大切にして日々活動していきたいと考えている。